

平成30年度 第60回 関東地区教員研修会

期日 平成30年11月10日(土)

会場 湘南白百合学園小学校



日本私立小学校連合会

〒102-0073

東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館6階

電話 03(3261)2934

十一月十日土曜日、第六十回関東地区私立小学校教員研修会が、穏やかな青空の下、湘南地方の名所江ノ島の近くにある湘南白百合学園小学校にて開催されました。神奈川県・静岡県・千葉県・埼玉県・茨城の各県より六二〇名の参加者がありました。会場の湘南白百合学園は、ローマに本部を置くシャルトル聖パウロ修道女会を経営母体とするカトリックの幼小中高一貫の女子校で、小学校は昨年創立八十周年を迎えました。

校訓は「従順・勤勉・愛徳」で、生活においては「当たり前」のことに当たり前にする」ように、

関東地区教員研修会を終えて

関東地区私立小学校連合会

運営委員 田口久美子

学習においては「最後まで、丁寧に、やり抜くこと」を大切にしている学校です。

開会式に先立ち一年生から六年生までの十四クラスで公開授業が行われ、大勢の先生方が参観さ

第60回 関東地区私立小学校教員研修会



れました。児童の興味を引き出して積極的に授業に参加させる科目が多く、授業研究の参考になったことと思います。

開会式では、関東地区私立小学校連合会会長斎藤滋氏、日本私立小学校連合会会長小泉清裕氏、神奈川県福祉子どもみらい局子どもみらい部私学振興課長八尋有造氏からご挨拶をいただきました。その中で小泉先生は、各地区それぞれが豊かな教育をしているが、人を育てるのには百年かかるので、この研修会が小さな一歩として新しい百年を目指してほしい、と力強く話されました。さらに会場校を代表して澤野誠校長より歓迎のご挨拶がありました。この後永年勤続表彰があり、今年度は十九名の先生が受賞されました。

続いて、シャルトル聖パウロ修道女会のシスター末吉美津子氏に「海外宣教を通して得たこと」という演題で講演をしていただきました。シスターは、日本での二十年間の修道生活の後、アフリカのカメルーンに派遣され、現地のピグミーの人達と協力して子ども達の教育に二十年間携わりました。シスターによると、人が人間として成長するためには、

「観察して、考え、行動する」という三段階が必要だそうです。物質的な支援だけを求める現地の人達に対して、シスターはただで物をあげることはせずに、自立を促しました。ピグミーの人達は家族と親戚単位で森の中に住み、農耕を知らずに狩をし

ながら移動生活をしていたため、子ども達は学校に行けませんでした。そこで、シスターは大人に芋や落花生を育てて収入を得て自立することを教え、子ども達を学校に通わせようと奮闘しました。たとえ一人ひとりとは違っても、それぞれがえのない命をいただいていること、その全ての人を大切に、ともに歩み、考え、支え合っていくことの素晴らしさを実感したとシスターは締めくくりました。

昼食後、十六の部会に分かれ、それぞれに研修を行いました。専門家の講演や示範授業、研究発表、ワークシヨップなど多彩な内容で、参加された先生方の学んだことを各学校に持って帰り生かそうという熱意にあふれた研修でした。

会場校の湘南白百合学園小学校の澤野誠校長先生を始め、教職員、関係者の皆様には、準備・運営に多大

なご尽力をいただきましたことを心から感謝申しあげます。

国語部会

講演 『深い学び』を目指す国語業

講師 筑波大学附属小学校

青山 由紀先生

西 麻紀子(関東学院)

【師範授業】

初めて会う子どもたちとの授業である。青山先生は発言を求める際、挙手した子どもたちの名前を呼んで対話をし、一人一人と向き合いながら授業を行っていた。できるだけくさんの子の声を聞こうとされていたことが印象的である。子どもたちは青山先生の発問をよく聞いて、真剣に授業に臨んでいた。

説明文の題である「感情」とは何かを考えることから学習が始まった。本文はまだ子どもたちに与えられていない。いきなり全文を読むのでは

なく、一文ずつ白板に提示され、その一文から次の文や、その後に書かれている事柄を予想しながら話を読み進めていった。子どもたちは、説明文には問の文や具体例、根拠などが書かれていることを知っていた。青山先生の発問に対し、子どもたちは元々持っている知識を使いながら考える。そして、次の文を予想する。答え(次の文)が白板に出されたとき、クラスから「お(や)っぱりそうだ」と一体感のある納得の声があることがあった。挙手をして発表する子もそうでない子も全員が頭を動かして、「主體的に考える」ということをしていたのだろう。

【講演】

『深い学び』を目指す国語授業で、まず重要なのは、「学習者が追及しなくなるような課題設定」である。新指導要領では、指導者のおしつけた考え方で指導者の決めたゴールに向かわせるのではなく、課題に対して一人一人が考えを持つことができるようにしていくことが求められている。テキスト(本文)と向き合い課題に対する個の考えを表明し、他者(友達)の意見を聞いて、考えを再構



築していくことで、深い学びとなる。
 考えを持たせる手立てとして、①
 題名から内容を推測させる、②テキ
 ストの途中までを提示し、続きを推
 測させる、などの方法がある。一つ
 しかない正解を求めると、正解が出
 た瞬間に考える活動が終わってしま
 う。しかし、その状況における「最
 適解」「納得解」を考えさせることで、
 他者の考えと自分の考えを比べ、考
 えを再構築することができる。意見
 を比べることで、発言していない子
 も考え続けることができ、思考力が

育つ。

課題を解決できるよう、系統的な
 指導も必要である。言語領域の系統
 指導はもちろん、思考の系統的指導
 も求められる。思考力を育む基盤と
 して、クリティカルリーディング(文
 章を様々な視点から検討する肯定
 的、建設的な読みの行為)がある。
 まずは肯定的に読む。そして納得す
 るだけでなく、疑問を持ったり、否
 定的にとらえたりする。なぜそう考
 えたのか、根拠を明確に示すことが
 重要になる。

社会科部会

『教科横断』の是非を問う

須河内 紅葉(洗足学園)

今回の社会科部会では、前半に玉
 井悠也先生(桐蔭学園)による「新学
 習指導要領に向けた、カリキュラム・
 マネジメントにおける教科等横断的
 な取り組みについて」のご提案があ
 りました。新学習指導要領では、よ
 り良く生きるために、社会における

問題を協力して主体的に解決できる
 ようになることを目指しています。
 そのために各教科では、社会で生き
 ていくために必要な「何ができるよ
 うになるか」を強く示していること
 が特徴となっています。社会科では
 位置や空間的な広がり、時期や時間
 の経過、事象や人々の相互関係と
 いった三つの視点が定められました
 が、これは新しい事柄を加えたとい
 うよりは、整理して社会科で培われ
 る資質・能力が明確になったという
 方がふさわしく、教師はこのような
 見方を働かせた授業を進めることが
 大切であると言えます。実際に玉井
 先生が桐蔭学園の建学の精神や校訓
 から社会科における学びに向かう
 力・人間性がどう定められているか
 を示してください、実際に取り組ま
 れている教科等横断的な視点を意識
 した取り組みについてのご紹介があ
 りました。教科等横断にも多様な視
 点があり、玉井先生が実際に行った
 「江戸幕府と民衆」の授業では同教科
 内での横断的な視点の紹介という新
 しい視点で、江戸時代の身分制度と
 日本国憲法の原則である基本的人権
 の内容を照らし合わせる授業のご提
 案がありました。

後半では玉井先生のお話を元に
 「『教科横断』の是非を問う」という
 テーマで教科横断から期待されるこ
 とやその反面危惧されること、教科
 等横断の他のアイデア、またそもそ
 も教科横断はどこまでをくくりにし
 るのか等、4・5人のグループに分
 かれて意見を交わしました。期待さ
 れることや危惧されることについて
 は、子どもたちの興味関心が深まる
 反面、知識の定着がしづらいことや
 成績の付け方や時数の扱いが難しい



算数部会

こと等が各グループであげられました。アイデアに関しては、各グループで様々な提案が出され、社会科は教科の特性から他の教科と結びつけやすい部分が多いことを実感しました。また、教科横断に意味を持たせるためにも、どのような資質・能力を育てるのかという目的をきちんと定めるべきであるという考えも目立ちました。そして全体的にはそもそも教科横断という言葉にとらわれず

ぎており、小学校は担任が全科の授業を持つことが多いことから、既に多くの学校で似ているようなことは行われているのではないかとこの意見が多数ありました。湘南学園の木村先生から「くわしすぎないつながり」というお話があり、教科横断という言葉を意識しすぎないで自然に他教科の話を取り入れる程度が良いのではないかという意見が、社会科部会全体の意見として集約されたように思います。

今回は全体を通して教科横断について考え、社会科だけではなく全体教科の関連や学校目標まで立ち返ることのできる、視野を広げる貴重な機会となりました。

講演

「主体的・対話的な深い学びのある授業とは」
～割合の学習を通して～

鵜飼 大(捜真)

今回の研修では、「難単元/割合」の概念を学級全体が獲得する教材と授業構成のあり方を考える」をテーマに筑波大学附属小学校の大野桂先生と明星小学校校長の細水保宏先生を講師にお招きし、5年生の難単元である「割合」の示範授業と検討会が行われました。

示範授業は、会場校である湘南白百合学園5年生の協力により行われました。

講師 筑波大学附属小学校

大野 桂先生

○示範授業

授業はまず「桂ちゃんとポッキーを同じチョコの具合でぬってつくろう」という問いかけから始められ、

1・2のどちらのポッキーの方が作りやすそうかな?という楽しい雰囲気が始まりました。当然、児童からは「半分だけ塗ってあるから2」という解答だけがあると思っていました。

「普段食べているポッキーは1だから1の方が作りやすい」という児童もいて、自分の思っていることを発言できる環境が素晴らしかったです。まずは2のポッキーから作っていく中で、まだチョコが塗られていない、長さの異なるポッキーの紙が配布され、塗り終わった児童から黒板に貼っていきます。

大野先生から「チョコの具合はどうなっている?」という発問に対する返答をノートに書かせたところ、「もともとのビスケットの長さは違うけどビスケットの長さに対してどれチョコの長さは半分だ」という意見や、2分の1、50パーセント、0、5などの意見も出てきました。児童がこの数字に対する説明を考え、長さを測り、ビスケットの長さが16センチでチョコの長さが8センチだから、16分の8＝2分の1＝50パーセント＝0.5という意見が出てきました。

では、1のポッキーもビスケットの長さが分かれば簡単だ!という話になり、1のポッキーも作ってみることにしました。

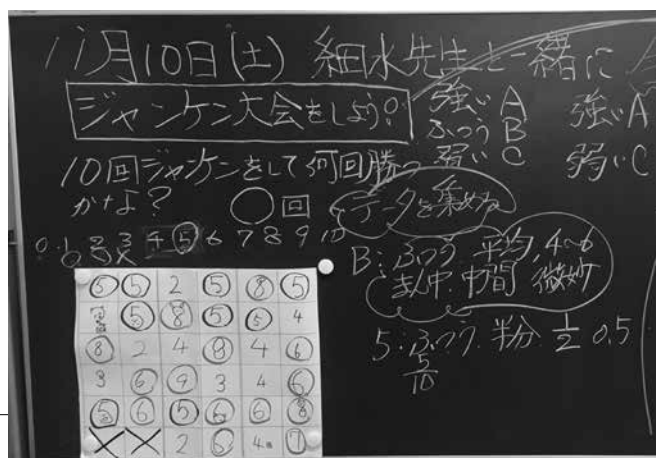
実際に1のポッキーの長さを測ってみるとビスケットが10センチに対してチョコが8センチだということがわかりました。大野先生の「見えない数字はありますか?」という発問に対して、児童が2のポッキーの考えを基にすれば、 $8(チョコ) \div 10(全体) = 10分の8 = 0.8 = 80パーセント$ だという意見が出てきました。またビスケットが2倍になればチョコも2倍になる!という比例の考えも出てきました。

講師 明星小学校 校長

細水 保宏先生

○示範授業

授業はまず、じゃんけん大会をしよう!という、児童の心がワクワクするような板書から始まりました。まず自分が強い・普通・弱いを予想でメモをとってもらったところ、普通が多かったです。その後、細水先生から「今から10回じゃんけんをします。何回勝つかな?」という発問



がなされ、ルール説明の後にじゃんけん大会が行われました。(じゃんけんが10回終わったら、黒板の表に書き込んでいく) データを集めた後、勝った回数によって自分はじゃんけんが強い・普通・弱いを判断してもらいました。その中で5回の人は普通なのかどうかの判断で、児童が自由に発言できる空間があり、素晴らしいと思いました。判断していく中で、6回以上勝った人は強い、4回以下の人は弱い、5回の人は普通という

結論にいたった。黒板に書いてもらったデータを基に、ベスト3を決めるという思考が行われ、単純に勝った回数が多い児童からベスト3が決められた。

次にじゃんけん大会2をしようとして、じゃんけんをする回数が決まっていないう状態でのじゃんけん大会が行われました(ただし、じゃんけんは教員と行う)。

これも前回同様、勝った回数を黒板の表に書いていき、自分が強い・普通・弱いを決めていき、誰がベスト3かを決めるということになりました。前回は全体数が10回と決まっていたが、今回は全体数が決まっていたので、「何か良い方法はないかな?」「何か良い方法はありますか?」という細水先生の発問があり、児童から「全体数から勝った回数が半分より多い人は強い。」という意見が出てきたため、表の誰が強いかわかると確認しました。その後、ベスト1を決めることになったが、児童から「めんどくさい」という発言があり、これに対して細水先生から「何か良いやり方はない

かな?」という発問があり、どのような比べ方があるかをノートにメモしてもらい、ノート展覧会が行われました。良いなと思う意見を自分のノートに書き写し、じゃんけん大会1とじゃんけん大会2の違いを確認し、全体数が変わると誰が一番かわるよ、だから割合を考慮するのだよ!という楽しい雰囲気の中で授業は終わりました。

理科部会

講演 「対話せずにはいられない
くなる新学習指導要領
対応の理科指導法」

講師 昭和女子大学人間社会学部

初等教育学科准教授

白敷 哲久先生

深沢 理恵(カリタス)

講演内容は、大きく分けると新単元「音」に関するワークシopp、実験や実体験が難しい単元と言われている環境に関する単元で使えるであ

ろうジグソー法のワークシopp、そして本を使った学習の出口として環境に関するボードゲームを体験するという流れで行われました。

それぞれのワークシoppの中では、白敷先生が訪問されたアジアの国々でのSTEAM教育の様子についてのお話もあり、これから未来を生きていく子どもたちを教育する私たちにあって、大変有意義かつ刺激となる講演でありました。

新単元「音」に関するワークシoppでは、スプーンと糸が配られ、糸で作った輪にスプーンを引っかけて、そのスプーンを叩くと、耳元に持ってきた糸から涼しげな音が聞こえてくるという体験を実際に行ってみました。

研修会は、顔は知っていてもあまりお話をしたことのない先生方が集まっていたため少し緊張した空気の中で開始されたのですが、こうした活動で場の雰囲気がつかり和やかになりました。

これこそまさに本講演のタイトルにもある『対話せずにはいられない』ということなのだと思ひ、同時に「音」の性質を視覚に訴えることの大切さを再確認しました。



次にジクソー法を用いた環境教育の実践を体験しました。

ジクソー法は実験がしにくい単元で導入すると対話が成立しやすいという見地から、環境教育で有効なものではないかと考えられます。

今回は『地球環境を守るためにわたしたちはどうしたらいいのか』というテーマについて事前に用意していた資料を元に分野別に分かれてジクソー法を体験しました。

環境教育ではどうしても地球の未来を考えると絶望的な意見ばかりが

目立ってしまうため、子どもたちはどんよりとしてしまいがちなのですが、最悪の未来を回避するための科学であると伝えることも大切だと学びました。また、その派生として環境教育とは最終的に、自分が何を幸せに感じるか・自分の生き方そのものを考えるという、理科という教科を越えた話もできるのではないかと

白敷先生はおっしゃいました。教科教育によって子どもたちが得るものは決して知識だけではない、深い学びに繋がるきっかけであるのだろうと思いました。同時に、そのような語りの中ではわたしたち教師の生き方も反映されてしまうため、改めて子どもたちに恥ずかしいくない生き方をしなければならぬのだと背筋が伸びる思いも噛みしめました。

白敷先生が講演の中で繰り返し伝えられていたのは、子どもたちが実際に体験したことの見方・考え方が分離することのないように、目で見えた事実是一体に何に当てはまるのかを分類しなければならぬということであったのではないかと思います。ただ楽しく活動して終わりということにならないために、わたしたち教師がちょうどいいタイミングで

出ていくことやひとりひとりの子どもへの思考の過程をしっかり和看取ることが必要なのだと改めて強く感じました。

生活・総合部会

講演とワークショップ

「お茶のおいしい入れ方教室」

栗原 義一(横浜英和)

今回の生活・総合部会の研修会では、前半はNPO法人日本茶インストラクター協会神奈川県支部長の中山理恵先生をお招きし、「お茶の美味しい入れ方教室」と題してのワークショップをしていただきました。

近年、ペットボトルのお茶が浸透することによって、お茶を入れる習慣が少しずつ家庭から薄れてきており、家庭から急須が無くなりつつあるそうです。そのため、今の子どもたちの中には急須の使い方やお茶の入れ方を知らない子どもが増えているのだそうです。

そのような状況で、日本茶インス

トラクター協会では、日本茶の伝統とその良さを知ってもらうために、お茶の入れ方講座を開いているそうです。そして、生活科や総合学習の一環としていろいろな小学校で注目を集めているそうです。

今回の研修会では、お茶の基礎知識や分類から、お茶の実際の入れ方まで丁寧に教えていただきました。参加していただいた先生方一人ひとりに急須と湯呑み茶碗が配られ、実際にお茶を入れ、他の先生方と飲み比べてみる事ができました。茶葉の量からお湯の温度、浸出時間によっ



てお茶の味が大きく変わるということだけでなく、同じように入れたはずなのに、他の先生とは味が大きく違うのは驚きでした。お茶との出会いは「二期一会」ということを実習を通して体験することができました。

お茶はし好品なので何を出すのか、どう出すのかは、出す方の自由だけれど、だからこそ、相手や状況を汲み取り、意図や思いを反映させることもできる、ということも教えていただきました。

後半は、鎌倉女子大学初等部の秋本篤志先生より「総合的な学習の時間の全体計画作成について鎌倉市の公立小学校と神奈川県私立小学校の実践比較」に関する報告をしていただきました。私立にとって総合的な学習の時間は自分の学校の特徴が出せる科目です。しかし、外国語活動や情報の授業の導入に伴い、時数の確保を各校で考えていかななくてはならなくなってきました。また、生活科や総合は担当者が毎年のように変わってしまったこともあり、もしばしばあり、内容がその年限りになってしまうこともあります。そのような中で重要となってくるのが学校としての全体計画の作成となります。

す。今回は、その重要性和作成の手掛かりを教えてくださいました。

新指導要領の全面実施が間近に迫る中、各学校でそのための準備が進められています。本研修を通して、私立小学校ならではの独自性を生かした実践が行われることを期待してみません。

音楽部会

リコーダー演奏を

深めていくために

設楽 拓也(鎌倉女子大学)

音楽部会の研修は、児童にとっても教員にとっても身近なリコーダーについてのワークショップを行いました。

今年は、湘南音楽院藤沢の谷川博基先生をお招きし、リコーダーの持ち方・吹き方など、リコーダーの基礎を学ぶ導入について学び、教科書に載っている教材を取り上げて掘り下げたり、ソプラノリコーダーの他にアルト・テナー・バスリコーダー

を交えてアンサンブルを行ったりしました。

リコーダーは普段よく使う楽器であるのに、演奏を深めていく準備があまりできていないのが現実です。リコーダー演奏は、継続していくと理想の形にはなっていくますが、早めに取り組むと効率的に習得できることがあり「はじめから〇〇をやっておけば良かったな」というポイントを実際にリコーダーに触れながら学びました。

まず、リコーダーを持つ際に、左右の手が逆になってしまう児童が必ずありますが、左手と右手の位置を確認するためには2・3回に渡る練習をしておくことがポイントだそうです。しかし、これをし過ぎると指を穴の上ののせていくことが大変になってくるので、注意したいところです。また、リコーダーをどの角度で持つのかによって姿勢や息の通り方が変わってしまいます。体に対してリコーダーを45度ぐらいに保つ姿勢が理想的ですが、その姿勢にしていくには、右手の親指・小指・下唇だけで支えられるように持ちます。そうするとこの理想の角度が保てるようです。手の位置が下がってしま

うと、リコーダーが落ちてしまうので、その体験があると児童も安定した姿勢を自分で見つけることができると感じました。

また、先生が使用する言葉で、リコーダーを「くわえる」という表現は、歯形がつくほど吹き口を噛んでしまう児童が出てしまい、そういう児童は下から唾液がたくさん出ていくかと思えます。吹き口に「のせる」「かぶせる」という言葉で先生がアプローチをすれば、余計な力が入ることなくリコーダーを持って構えることができるという聞き、言葉の選び方は



図工部会

講演 ワークショップ

「墨と箔の技法にふれる」

松原 亜佐美(清泉)

今回の研修では、日本美術院の村岡貴美男先生、永吉秀司先生、大河

とても重要だと思いました。

音を止める時には、吹き口に舌を当てることで、自然に美しく音を止めることができ、音を伸ばしたい時には、まっすぐに伸びていかなければ、紙まっすぐに伸びていかなければ、紙ひこうきを飛ばすように、息はほんのわずかに上昇していくように、という谷川先生の声かけで、先生方が演奏するリコーダーの音色は教室中に美しく響き、まとまりのある演奏ができました。

今回の研修会を通して、今までの自分自身の授業アプローチを見直し、すぐに実践したい児童への言葉かけがたくさんあり、実り多き一日となりました。

原典子先生をお迎えして、小学校の図工の授業の実践で使える墨、そして箔を利用した技法を教えていただいた。日本美術院では、以前より出前授業と称して直接子ども達に日本画の素晴らしさを伝える活動を続けられている。そこで生まれる子ども達の新しいのびのびとした表現はとても魅力的で、今回図工部会全体でご指導いただけることをとても楽しみにしていた。

まずは水墨表現の一つ「墨流し」である。バットに水を張り、墨汁を垂らしていく。指で水面を動かすと美しい模様が広がっていく、それを何種類かの紙に写し取っていく。吸水性の良い再生画用紙は成功しやす子ども達の初めての体験としてはお勧めだそうである。又、逆に耐水性の強いM画紙などを使うと模様が淡く出る。他にも水彩紙や色画用紙、画仙紙なども試してみた。基底材を変えることにより、全く違った風合いが生まれ歓声が上がった。次に青みがかった松煙墨と茶色がかった油煙墨の二種類の墨汁を使って、乾いた上に描き加えていく「積墨法」とにじみを利用して描いていく「破墨法」の表現を試してみた。「破墨法」は偶



然できる形の面白さがあり、見立て遊びなどに向いている。さらにドーサ液が墨を弾く性質を生かして「白抜き」の技法も教えていただいた。これはドーサ液の代わりにアラビックヤマトのりを薄めたものを使ってもできるそうだ。他にも洗濯糊なども使えるが、こちらは完全に墨を弾く性質を持っている。

そして次に箔を使った技法である。金潜紙と本画仙紙、二種類の色紙に水墨表現を施し、さらに「砂子」という箔を細かくしたものを作品の上に撒いて定着させていった。砂子

には荒目、中目、細目があり使用する筒が異なる。竹製の手作りの道具も工夫されていて美しい。でも学校の授業ではスパッタリングに使う金網と歯ブラシでも代用できるそうだ。接着剤となるドーサ液はアラビックヤマトのりで、金箔は高価なので安価な銀箔や金色の洋箔を使うと手軽にできるそうだ。

最後に、大河原先生を囲んで、箔を使いやすくするために、箔を薄和紙に密着させて取り出す「平押し」や、細かい装飾をするために、鹿の皮を貼った箔台の上で、節のない篠竹で作った竹刀で箔を細く切って加工する「きりかね」という技法の実演を見せていただいた。ここでも金箔は高価なので、金色の真鍮の箔で代用できるそうだ。このような技法を間近で見せていただくチャンスはなかなか、貴重なひとときであった。

普段あまり馴染みがない日本画だが、伝統の重みや、手のかかった道具類、繊細な表現を支えている技法について知ることができ、あらためてその素晴らしさを感じることができた。またそれを授業の実践で活かせるようにと工夫の仕方を教えてい

家庭科部会

暮らしを彩る編み物

對馬 理恵(森村学園)

ただき、大変充実した研修会となった。

家庭科部会では、茅ヶ崎市で編み物プライベートレッスンを行っているかぎ針編み指導員の中村順子先生にご講演、編み物体験をしていただきました。小学校家庭科の学習指導要領や教科書では編み物に関する記述は実はほとんど見られません。冬の過ごし方を扱う部分で毛織物による体温調節としてはんのわずか触れる程度です。しかし、各学校で行われている家庭科系統のクラブ活動において編み物は子どもたちにとって非常に魅力的で関心の高い分野だと感じます。特に冬場は挑戦したいと意欲的になれる季節でもあると思います。そこで、今回の体験を通して、家庭生活に必要な編み物の指導に生かしたいと考え、先生にご講演

いただきました。

中村先生はご自宅でのプライベートレッスンの他に老人ホームなどにも訪問して編み物教室を行ってられます。編み物は一見すると複雑で高齢の方には難しいと思いがちですが、認知症に対して非常に効果的だと言われています。編み物特有の指先の細かな運動が脳を刺激し、認知につながっていきます。さらに昔編み物をやっていた方は、編み始めると指が編み方を思い出すことで、記憶を呼び覚ます効果があると言われてるそうです。また、認知は初期症



状としてイラつきやすいことがあるが、編み物を完成させて、自分だけの作品が仕上がったことによって得られる達成感や満足感から表情が和らぐ利用者の方が多いとのことでした。このように感情の起伏が激しくなってしまう方にとっても細かな作業の編み物はおすすめだとおっしゃっていました。授業をする私たちにとっても、感情のコントロールがうまくいかない児童に対する良い手立てだと感じました。

中村先生からご自身の活動について伺った後すぐに製作に入りました。今回はクリスマスにぴったりなお花のリースを製作しました。基本のくさり編みから始め、長編み、引き抜き編み、長長編みなどの技法を学びました。講師の先生方のお力を借りて、リースにつける花のモチーフを一人二、三個ほど製作することができました。この時点で初心者の方から先生方からはやっぱり難しい、何個目に何回編んだのかわからないなどとくじけそうな声も聞こえました。が、何回か同じ作業をしていくうちに目と手が慣れ、スピードが上がってきていました。最初の細かな編み方さえ理解できれば、あとは繰り返し

です。ですからすぐに上達したような気持ちになれるのも編み物の魅力のひとつかもしれません。家庭科の授業同様、先生がすぐそばに来てくださり、手元を見ながら教えることが一番の理解につながり、製作するうえでも安心してできることを改めて感じました。参加された先生方からは、普段教える立場ばかりだが、今回先生に教えてもらう側となり、「上手になったね。」「もうちょっとだよ。がんばって。」と励まされることでどれほどやる気になるかがよくわかったとの声がありました。今回の研修を通じて、技術面ばかりでなく、もっと子どもたちにプラス評価の声掛けを心掛けたいと感じました。

体育部会

「怪我の予防」授業に取り入れられる柔道の受け身

伊東 英奈(湘南白百合学園)

今回の研修では、日本体育大学スポーツ文化学部武道教育学科教授で



いらつしやる山本洋祐先生をお迎えして実技研修を行いました。

先生は現在、日本体育大学の柔道監督でいらつしやり、ご自身も世界選手権で優勝、ソウルオリンピックでは銅メダルを獲得されています。

柔道の歴史やオリンピックのメダルについてのお話を交えながらお話を伺うことができました。

実技研修では、子どもが転んだ時に手を出すことができず顔や頭を打って怪我をすることを防ぐために、小学生でもできる様々な柔道の

受け身を教わりました。

受け身とは、自分で倒れるときも相手から投げられたときも怪我をしないように痛みを軽くして楽に倒れるようにすることです。

最初に、背中から倒れた受け身の練習を行いました。背中から倒れた場合は後頭部をそのまま打ちつけないように、首を前の方に向け体がUの字になるようにします。同時に倒れこむ瞬間に両手を広げて弾みをつめるように地面をたたきます。また、Uの字を作る際に足を伸ばすことも重要で、足を曲げてしまうと自分の膝が顔に当たってしまう恐れがあるので注意が必要です。これは後ろ受け身で柔道では大内刈りや小内狩りなど後ろに投げられる技をかけられるときに使うそうです。

次に、横受け身をご指導いただきました。横受け身とは、横方向に転倒してしまった際や、足払いなど横方向に倒されたときにとる受け身です。横受け身でも、倒れるときにしっかりと顎を引いて、後頭部・側頭部が地面につかないようにすること、手で畳をはじくように叩くことが重要です。さらにここで一番大事になってくるのが「足の使い方」です。

足は「両足が重ならないように、かかとをそろえること」を意識することとで、足同士の接触によるけがを防ぎ、足の甲や足裏全体、下半身全体で接地面積を増やし、効率的に衝撃を吸収することができます。練習では仰向けに寝転んだ状態からスタートしました。次に中腰の姿勢からになり、最後は立位からと徐々に難易度が上がっていききました。立位からの横受け身では横に手を出した状態から左右に体重移動をして、移動の勢いから手と足を同時に払い、横方向に倒れこんで横受け身を取ります。

実技研修の最後には、その場で簡単にできる体づくり運動も教えていただきました。運動量が多く、運動強度も高いため、授業の導入で取り入れることで児童の体力向上につながります。また、柔道特有の地面に体全体を接して、回ったり跳ねたりするような運動もあったので、転倒時にけがを防ぐことのできる、身のこなしの向上にもつながるのではないかと思います。最後になりますが、今回の活動を通して多くの先生方と交流を深め、知識経験も蓄えることができました。本研修の開催にあた

り、ご尽力いただいた先生方に感謝申し上げます。

学校保健部会

多数決に頼らない話し合い

田島 恵聖ステパノ学園

今年度の関東地区私立小学校教員研修会の保健部会では、街作りファシリテーターとしてご活躍されている竹迫和代先生にワークシヨップを行っていただきました。

今回のテーマは「ラベルワーク」です。ラベルワークとは、行事や学級運営など、様々な場面で行われている話合いの場をより良いものにする手法の一つです。主な特徴は、多数決や主張の強い方の意見に左右されず、その場にいる全員の意見を拾い集めることのできる、という話合いの手法の一つです。

ラベルワークに必要なのは付箋やハサミ、A4用紙、サインペンなど。四人一組のグループワークに分かれて、タイムキーパー、文房具、スパ



イ、イイね係りの中から一つの役割を担います。ここで重要なことは、グループ内にリーダーを作らないということです。テーマに沿った意見を付箋に三十字以内で書き込みます。この時注意することは、付箋に書いた文字だけで相手に伝わるようにするということです。もちろん、若干の言葉での補いはありますが、付箋に簡条書きの意見を記入してドラダラと説明を足していくことを防止しています。これはラベルワークに限らず、一般的な会議や会話の中

でも簡潔に自分の意見を伝える練習になるそうです。

今回のラベルワークで特に面白かったところは、他のグループにスパイとして行き、そこでの話合いや出された意見などの情報収集を行い、自身のグループに取り入れていくというところです。話合いの幅が一層広がりました。また、イイね係りがどのような意見であつても「イイね」と言う役割を担っていたので、自信のない意見でも、話しやすい雰囲気自然と生まれていたように感じます。文房具係りが選ぶ紙の色が色とりどりだったことも、楽しさを膨らませてくれた要因の一つだと思います。ちょっとしたところにもさりげない遊び心を取り入れることで、楽しむ話合いという空間ができていたように感じました。もちろん、これらは時間の管理を行い、停滞なくワークが進むように促してくれるタイムキーパーがいてこそです。

付箋に書き出された意見は、同じ内容ごとに A4 用紙に貼っていきまます。この時大切なのは、無理に意見をまとめないことです。また、一つしかない意見(通称、「一匹狼」)はそのままにして、貴重な意見として大切

に扱うことだそうです。A4 用紙には見出しを書き、他のグループの意見と合わせていきます。似た意見は同じグループに入れていきます。最後に、一人ひとりが気になる順位を決めます。決めた順位に合わせて、三色のシールを気になる見出しに貼っていきます。シールが多い、また、一人でも一番気になるというシールを貼った見出し、などに注目して、今後の話合いで扱うテーマや扱う順番の参考にしていきます。

つい偏りがちな話合いですが、平等に全員の意見を取り入れることのできるラベルワークは、学級内での話合いや会議の場で大いに役立つと思いました。

学級経営部会

アンガーマネジメント

叱り方研修

八木 恵(清泉)

小学校教諭でアンガーマネジメントファシリテーター・叱り方トレー



ナーの韓進鏞先生の講演が行われた。

「気になる子供の心を開く褒め方・叱り方」最近の子供は自尊心が低い。自尊心が低い子供は「できない・わからない」が続くと学習性無力感に陥ってしまう。そんな子供達に対応していくには態度だけを見るのではなく子供の背景要因まで考えて対応する事が大切。

又、気になる子供の中に発達障がいのある子供がいる。発達障がいのある子供はワーキングメモリーが低く、叱られ続けると自分はダメだ、

自分ばかり注意されると思うようになる。不適切な対応から反抗挑戦性障がいを引き起こしてしまう事もある。それを防ぐためにも指示の仕方や対応の仕方が重要で、短く、望ましい行動、言い方を具体的に教える事が大切だそう。

更に、最近の子供は「キレやすい」とも言われる。子供達の変化には親の行動が影響を及ぼしている事もある。虐待やネグレクトもその例。そんな環境で育っている子供達はセロトニンが不足しているという。セロトニンが不足すると脳の機能が低下し、心のバランスを保つ事が難しくなる。微笑み事や話しかける事、食生活の改善でもセロトニンを増やす事ができるという。

「傾聴のトレーニング」このトレーニングの中で、褒め方、叱り方のコツも教わった。褒め方のコツは短く太く褒める事。「言い方」よりも「タイミング」が大切。叱り方のコツは短く太くしかる、「子供を叱る」のではなく「行動を叱る」。褒められる部分と叱られる部分のバランスをよくする事等学級経営の面でもすぐに実践できる事を沢山学ぶ事ができた。

「叱る事・叱らない事」「アンガーマ

ネジメント*怒らない体操」の後、叱る事のプラス面・マイナス面、叱らない事のプラス面・マイナス面を考えていった。アンガーマネジメントとはアンガール怒り。マネジメントは上手に怒れ、怒る必要のない事は怒らないようになる事。アンガーマネジメントは怒らないという事ではないと理解した上で、怒るとはどのような事を考えていった。人は自分にとっての正解・「べき」を目の前で裏切られるので怒りを感じる。だから、この「べき」の境界線を広げる事が大切となる。「叱る」という事自体に問題はない。ただ、叱り方には上手な叱り方がある。上手な叱り方は叱る時の基準が明確で納得性が高く、相手を責めない事。感情で叱らない、人前で叱らない事も重要なポイント。傾聴のトレーニングでも教わった事だが叱ると褒める事のバランスはここでも重要。

最後にアンガーマネジメントをするため、①衝動のコントロールとして、まず六秒待つてみる。②思考のコントロールをし「べき」の境界線を広げる。③行動のコントロールとして、今すぐか、そうでないかで判断

して叱る三つの方法を教わった。場に応じての対応、対応のもつ意味を細かく教わる事ができ、これからの指導にも活かせるものも多く大変有意義な講演だった。

学校図書館部会

実践報告・講演

「もしもこの出会いがなければ」

桐藤 飛鳥(横浜英和)

第一部では、湘南白百合学園小学校の小菅朝子教諭による実践報告が行われた。湘南白百合学園小学校の図書館づくりで心がけていることは、「つなぐ」ことである。本と人、人と人、人とのものを「つなぐ」をコンセプトに、配置、授業の形態、読書会の形態などが行われている。休み時間には低学年の児童が多く遊びに来ており、本を見ている子がいたり、高学年の児童が低学年に折り紙を教えたりと、様々な過ごし方をしていく姿が映し出された。子どもたちにとって図書室は、本を借りたり返

したり、読んだりするだけでなく「遊びに行く場所」となっている。だんだん本が電子化されて教室でタブレットで見られる時代が来た時に、図書室をどのように使っていくかと考えると、本の貸出返却だけでなく、異学年が交流できる場所、あらゆる分野において楽しめる空間づくりを心がけていることが語られた。また「読書会」や、「伝統文化に関する教育」として、体験する授業を行っており、本と実生活を結びつける大切な役割を果たしていることを、写真を見ながら紹介していただいた。授



業で用いているプリントから、図書室で指導したことが他教科に渡って活用されている例も紹介された。

小菅教諭は図書司書であるが、司書教諭の傍らで様々な授業を担当する機会が多い。その経験が力となり、教科と教科の結びつきが分かるようになったという。校外学習の引率も多く、図書室の仕事をできる時間が限られる状態であるが、教科を結びつける役割として励んでおられる様子が語られた。

第二部では、昆虫研究家の吉谷昭憲先生による講演会が行われた。吉谷先生は、福音館書店の月刊「たぐさんのふしぎ」シリーズの『昆虫の体重測定』の著者であり、月刊「かがくのとも」シリーズなど多数の児童向け絵本を手掛けておられる。吉谷先生のこれまでの歩みと多くの出会い、この仕事に携わることになったきっかけや、『昆虫の体重測定』はどうやってできたのか、などお話ししていただいた。また、昆虫の幼虫の体のつくりを、ぬいぐるみを使って説明していただいたり、「昆虫の重さを身近な用品に置き換えてみよう」ということで、一人ひとりに、ばらん、ゼムクリップ、おはじき、消し

ゴムが配布された。実際に比較した身近な用品を手に乗せてみることで、昆虫の重さを想像して楽しむことができた。また、上から落とすところくるる回って落ちる「もみじの種」の自然のプロペラを、折り紙で再現できるアイデアをお持ちいただき、みんなで折って実践した。この模型を作ること、更に楽しく学ぶことができる。幼い児童でも実践できる方法だということで、これからの授業にすぐに活かせるコツをお教えいただいた。

貴重なお話を聞かせていただき、大変実りある学びの時となった。今回の学びを、実際の授業で活かし、子どもたちが興味をもって楽しめる授業づくりに役立てていきたい。

メディア教育部会

創意工夫を生み出す

プログラミング教育

横山 治樹(桐光学園)

二〇一八年に入り、新指導要領の

移行期間になりました。各学校では、プログラミング的思考を育むためのカリキュラムを試行錯誤し、学校によっては独自の取り組みを始めています。神奈川県私立小学校も例外ではなく、各々の学校の先頭に立つてがんばっている先生方がいます。

これまでに何度かプログラミングについて扱ってきました。子どもたちにはプログラミング的思考を育むことは重要なことであり、これからの時代を生き抜いていく子どもたちにとって無視できない大切なことです。プログラミングの教材や取り組みについて議論をすると、必ずポイントになるのが面白いかどうかです。子どもたちの主体的・対話的な取り組みを生み出すために、自分の感性を大切にして試行錯誤をしています。

今回の研修会では、日ごろ学校の先頭に立って活躍される先生方がたくさん集まる中、NTTドコモの方を講師にお迎えして、今話題の「embot」の研修会を行いました。

しかも、今回は製品版の「embot」を触ることができ、外部で初の研修会とのことでした。「embot」はロボット教材であり、本体の中に基盤

を入れて、タブレット等で命令を送って動かすタイプの教材です。ただ、「embot」は、他社の教材と異なり、学習する児童になじみのある段ボールが素材の主役です。子どもたち一人ひとりがロボットに名前を付けて、オリジナリティのあるロボットを作るところから始まりま



す。ロボットを組み立てていくうちに、自然と愛着がわきます。学校によっては図工の立体工作の学習の一つとして扱っているそうです。段ボールが材料なので、決められた形に固執する必要もなく、目的に合わ

せて形状を変えていくことができるのも「embo」の大きな特徴です。課題解決ロボットのようには、創意工夫を取り入れていくこともできます。「embo」は教科横断的な取り組みも考えやすく、やってみて面白い教材でした。

すでに、移行期間に入っているため、各学校で話が進んでいるようですが、一方で設備の導入や、それを扱う教員のスキルアップの準備が進んでいないのが現状であり、課題です。実際に、研修会の最中に、各先生方がプログラムを組む時間を取りました。あらかじめ自分が考えた夢のロボットになるためのプログラムです。時間の関係上数名の方に発表してもらったことしかできませんでしたが、見識の深い先生方は、面白いプログラムを組めます。発想が面白く、そんなこともできるのかと目からうろこが落ちました。学校現場で取り組んでいけば、子どもたちから質問を受けることもあることでしょう。そのようなときに、一緒に答えを見つげるための、ある程度の知識と経験が必要になってくることでしょう。

子どもたちをどのように育てるた

めに、何を教材にするか。二〇二〇年の本格導入に向けて、私たちは実践を積み時期を迎えています。

外国語部会

こどもの英語を学ぶ意欲と四技能をぐんぐん高める授業デザイン
〜英語で「学べがキーワード」

楠山 玲(捜真)

外国語部会には、近年で最多五十名弱の先生がご参加下さいました。始めに、会場校で午前中に公開授業をしてくださったポール先生より湘南白百合学園小学校の実践等について説明があり、そして今年度部長の今井先生(相模女子大学)、副部長の水谷先生(聖ヨゼフ学園)より、外国語部会における部長の役割の新たな分担と輪番システムについて提案、来年度の日私小連夏季研修会についての連絡がありました。

その後、講師をお招きして学びの時を持ちました。今年度は奈良の東大寺学園中高より西山哲郎先生にお

越しいいただき、「こどもの英語を学ぶ意欲と四技能をぐんぐん高める授業デザイン〜英語で「学べがキーワード」」と題して、西山先生の中学校における授業体系の変遷や、英語の学びにおける重要なエレメントを実際の授業風景も含め沢山伺うことができました。

伺ったお話のいくつかを紹介致します。

◇英語の歌詞をスクリーンに映し出し皆で歌う活動。ポイント、恥ずかしがらず楽しむこと、教室のドアを閉めて思い切り歌うこと！

◇Introducing Others 著名人(スポーツ選手、漫画家、政治家など)の写真や簡単な説明を見て、その人のことを紹介、また自分とその人物との関わりや自分なりの解釈について話してゆく活動。

◇Why Because「あなたの一番好きな色は？」や「ドライブは好きですか？」「あなたが地球最後の人だったら何をしますか？」「今までもらったもので一番印象的だったものは？」などテーマにそってペアで質問者・回答者に分かれて問答する。ポイントは、質問者が段々と質問をずらしてゆくこと。そして慣れてき



たら、その活動を英語で行う。制限時間を越えて行われる程活発な活動。◇Critical Response こちらも慣れるまでは日本語の活動から行う。「気になるあなたの癖は？」「一番会って見たい有名人は？」「生まれ変わるとしたら女性？男性？」「あなたの人生を本に例えるとタイトルは？」などの質問から大喜利を行う。◇ORT(Oxford Reading Tree)多読 辞書はひかない。返り読みしない。面白くなかったらやめる。という多読三原則のもと、西山先生は週四時間ある授業のうち一時間分をこのORT多読の時間にする程大事に

している。教科書や、子ども達が一見食いつきそうなデイズニーの教材よりもより生活で使われる英語や、それぞれのレベルに合った英語と触れることができる。

どの活動も、英語で会話する楽しさにつながるよう丁寧な工夫が見られました。

子ども達が、授業によって身につけた英語を土台に自ら意欲的に知識と能力を獲得してゆく様子とその活動を目の当たりにし、外国語を使って人と関わることの楽しさ、また、教える我々がGood Communicatorである重要性を身感じて学ぶことができました。

学校劇部会

君にもできる！ 劇の授業！

馬場 雅子(横浜英和)

今年度の学校劇部会は、第一部授業公開、第二部授業の追体験と、二部構成で研修をおこなった。

第一部『劇の授業を見てみよう』で

は、七沢希望の丘初等学校関口穂太郎教諭による劇の授業が、湘南白百合学園小学校六年一組の児童三十八名に対して展開された。

授業に入る前の昼食の時間を使って、関口教諭は初対面の六年生の女の子たちと打ち解けるために自己紹介やアイスブレイキングのゲームなどをおこない、垣根を取り除くことに努めた。

その心をほぐす活動が功を奏し、沢山の教員で囲まれた教室は、穏やかな空気に包まれて授業が始まった。

初めにグループ作りを兼ねたゲームがおこなわれた。関口教諭の手拍子の数で集まった三〜五人のグループで、課題をこなしていく。数字を順番に言っていくのだが、少しずつ条件が付けられ難しくなっていくのだ。ここでのポイントとは、グループのメンバーが間違えてしまった時、メンバー同士で非難したり、がっかりしたりするのはなく、皆で「イエーイ！」と大きな声で発し、両手を挙げて喜ぶ(?)という約束が交わされた。これが、最初は小さな声でなかなか難しいのだが、一つのグループから「イエーイ！」と元気な声

が聞こえてくると、だんだんと教室中に「イエーイ！」の声が笑い声とともに広がり、一気に元気な明るい教室となった。

ここで、本題の劇の授業『形容詞と名詞を用いての即興劇』の時間となった。六つのグループの代表者が『性格を表す形容詞』と『人物』が書いてあるくじ計二枚を引く。そして、そのくじの内容を主人公にした即興劇を考えるというのが、劇づくりの手順である。



(1)涙もろい コンビニ店員
(2)おっちょこちょいな 桃太郎
(3)自信がない 先生
(4)めんどくさがりな 警察
(5)陽気な 医者
(6)忘れっぽい 王様・女王様

どれも題名を聞いただけで、笑いが起きた。十分弱の相談タイムで、劇を作り上げることが子どもたちに伝えられた。

相談タイムに入ると、子どもたちは、キャラクター言いながら、すごく楽しそうに盛り上がっている。自分たちで自分たちの劇をしてみるだけで、おもしろくて笑い合っている状態であった。

劇の発表は、どのグループもしっかりと最後まで演じきることができ、見応えのある内容であった。クオリティの高い劇を恥ずかしがることなく演じることができていた。

発表後の振り返りの時間には、「いつもの劇より楽しかった。」「友達と触れ合えて、気持ちがいい。本当におもしろかった。」という感想が出て、最高学年児童の満足そうな顔が印象的であった。

第二部の追体験では、言葉通り同じ体験をすることができ、教師も大

教頭会部会

満足で終わることができた。
終了後の振り返りでは、早速自分のクラスで取り組んでみたいと感想を述べる者が多かった。
子どもたちの「イエーイ」の声も大人の「イエーイ」の声も響き渡る活気に満ちた研修となった。

プログラミング授業紹介と 体験学習

馬場 淳(桐光学園)

今年の関東地区の研修会では、プログラミング教育研究者であり、小学校現場での実践事例にも詳しい鵜飼佑先生を講師にお招きし、プログラミング教育必修化の世界的な動きや二〇二〇年からのプログラミング教育必修化についての概要、またそれに対する鵜飼先生の個人的なご意見について講演していただきました。また後半は、小学校におけるプログラミング教育の事例を紹介していただきましたが、実際に体験する場

を設けていただきました。

第四次産業革命といわれる現代では、いろいろなテクノロジーによって情報が早く伝わるようになりまして。特に十年前に誕生したスマートフォンは、社会を劇的に変化させ、私たちの生活の一部となっています。また、最近ではディープラーニング等によりAI技術が発展し、今までは人間にしかできなかったことが、AIによってできる時代になってきました。

しかし現在、そのような技術を支えるIT人材は、世界的にも日本においても不足して、その不足は今後さらに拡大していくと言います。そのような人材を育てることを求められていることが、プログラミング教育必修化という考えに至った要因の一つでもあるようです。

また、これからの時代を生きる子どもたちが大人になって、何か新しいことをしようとしたときに必要になる基本的なスキルがプログラミングであるというお話もありました。プログラミングを必修化し、これからの時代を担う若者すべてがそれを学ぶことによって、今までは考えられなかった分野でのプログラミング

技術の利用も誕生するのではないかと。そういう自分のアイデアを実現するクリエイターを増やしたいという熱い思いを先生から伺いました。

文部科学省はプログラミング教育で育む資質・能力について、「知識及び技能」身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気づくこと、「思考力、判断力、表現力等」発達の段階に即して「プログラミング的思考」を育成すること、「学びに向かう力、人間性等」発達の段階に即して、コンピュータの働きを、よりよい人生や社会づくりに生かそうとする態度を涵養すること」と示しています。実際に小学校の教育現場において行われるプログラミングの授業で大切にすべきことは、プログラミングとはどういうものかを体験し、その体験を通して楽しいと感じることだと伺いました。

二〇二〇年に向けて、様々な企業がプログラミングを学ぶための機器を開発しています。今回の研修でもスクラッチやビジュアルプログラミング環境や、メッシュやマイクロビットなどの有償の機器を使ったプログラミング活動に



についての体験や紹介をしていただきました。学校教育の現場においてどのような教育環境を用意するか、取捨選択する難しさを感じつつ、私たち教員も学ぶ姿勢を持つて考えていく必要があると強く感じる研修会となりました。



学園の沿革
 本学園はローマに本部を置くシャルトル聖パウロ修道女会によって、一九三六年に幼稚園が、翌年に小学

学校紹介

未来を切り開く
 女性を目指して

湘南白百合学園小学校

校長 澤野 誠

校が、さらに翌年に高等女学校が設立されました。

戦後、校名を「湘南白百合学園小学校」と改め、一九七九年に中学・高等学校が片瀬目白山へ移転。一九九五年に小学校校舎を、二〇一四年に幼稚園園舎を新築しました。

湘南の地において、カトリックの幼小中高一貫の女子校として、着実に歩みを続け、本校は今年で創立以来八一年目を迎えています。

教育方針

幼稚園から高等学校に至るまで、キリスト教精神に基づいた一貫した教育を行っています。

児童手帳には、「学ぶ目的」が次のように謳われています。

「湘南白百合学園小学校の私たちが学ぶのは、神さまの教えにしたがって、知識を豊かにし、いつでも、どこでも、正しいことを求め、愛の心にあふれて、世界の人々のために働く人となるためです。」

この実現のために掲げている校訓の「従順」「勤勉」「愛徳」は、児童にとっては目指すべき姿、教職員にとっては教育活動の理念となっています。

教育の特色

・キリスト教の精神に基づいた一人一人を大切にした教育

「神様はありのままのあなたを愛され、共にいてくださる。」というのが、イエス・キリストの教えです。

この教えに基づき、一人一人をかけがえない存在として受け止め、個を大切にした教育に努めています。

・女性の特性を生かした教育

本校は女子校ですので、男の子への「遠慮」や「依頼心」がなく、自分がしたいことにチャレンジできる、女の子が主役の学校です。

学習においては、「最後まで丁寧に取り組むこと」を重要視しています。

また、いきなり難しい問題を考えるのではなく、簡単な問題から次第に問題のレベルを上げていくスモールステップによる学習を心掛けています。

・当たり前のことが当たり前にできる教育

子供は可能性の塊です。どこに才能があるかわかりません。何でも一生懸命取り組んでみることが大切です。挨拶をする、人の話を傾ける、整理整頓を心掛ける、一生懸命

掃除をするなど、学校全体に当たり前のことを当たり前に頑張ろうという雰囲気があることを、私たちは誇りに思っています。

・体験学習の重視

これからは、自分で考え、自分で判断し、協力して問題解決に取り組む能力が必要です。協力し合って何かを成し遂げる力は、頭でわかっているても、行動が伴わなければ意味がありません。体験を通してしか学べない能力です。

本校では、一年生の江ノ島水族館学習、二年生の茶道体験、三年生の介助犬教室、四年生以上の校外宿泊学習など、学年に応じた多彩な体験学習を通して、自分の未来を切り開く女性の育成を目指しています。



4年足柄自然教室

平成30年度 第63回 全国幹部研修会

期日 平成30年12月6日(木)～8日(土)

会場 アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

全国幹部研修会を終えて

東京私立初等学校協会

副会長 重 永 睦 夫

東京地区としては七年ぶりに担当する全国幹部研修会でした。順番からすれば平成二十八年度が私ども東京地区担当でしたが、それを北海道・東北地区が、千年ぶりの大災害に見舞われた日本大震災の爪痕がのこる東北地区を会場とすることに意義があるとして肩代わりしてくださいました。七年ぶりの東京開催に一抹の不安がありました。皆様のご協力のお陰で無事終えることができました。心より感謝申し上げます。

初日の開会式では



後、最初の企画として、「発達障がい児の社会自立に向けて」を副題に

東京都私学部長の金子光博氏の祝辞をいただきました。続けて清水良一局長より私学関係の報告があった

「武蔵野東学園のインクルーシブ教育」について同校の北村典子教頭先生にご講演いただきました。五十四年前に武蔵野東幼稚園として始まった学園ですが、創立者の北原キヨ先生ご自身が手探りのなかで自閉症児と健常児の「混合教育」に踏み出さ

れたと言います。その原点は「子の幸せを願う親の心」というところにあります。健常児だけを集めて教育する私どもの学校運営についても示唆の多い講演でした。夕食は懇親会をかねてのことでしたが、アトラクションとして東京都市大学付属小学校卒業で、ドイツで活動されているヴァイオリニスト武田章寛氏による演奏があり、花を添えてくださいました。超絶技巧の演奏には一堂、舌を巻いたところでした。

二日目。午前中はセット企画として二つの講演でした。①『「世界の食事情」をテーマとした次世代型教育について』(講師・Lbe Japan 代表取締役北浩一郎氏)、②「TABLE FORT WO の取り組みの紹介」(講師・特定非営利活動法人

TABLE FORT TWO International 代表 安東迪子氏)の二つです。①の北氏の講演は外国からの留学生六人を交えたグループ討議も織り交ぜた講演で世界の食事情に留まらず異文化理解や教育、テクノロジーや英語の壁など、広範囲に亘って交流を深めることができました。②の安東氏からは世界を覆う飢餓と飽食の二極化の異常性を学ぶとともに、それを解決する運動について理解を深めることができました。昼食には TABLE FORT WO に協力している築地青木の仕出し弁当をいただきました。午後のフィールドワークでは、東京オリパラに向けて新築されている新国立競技場、国会議事堂、江戸東京博物館を巡ったあと現地解散で両国組、東京スカイツリー組、市ヶ谷戻り組に分かれまし

た。



た。その原点は「子の幸せを願う親の心」というところにあります。健常児だけを集めて教育する私どもの学校運営についても示唆の多い講演でした。夕食は懇親会をかねてのことでしたが、アトラクションとして東京都市大学付属小学校卒業で、ドイツで活動されているヴァイオリニスト武田章寛氏による演奏があり、花を添えてくださいました。超絶技巧の演奏には一堂、舌を巻いたところでした。

二日目。午前中はセット企画として二つの講演でした。①『「世界の食事情」をテーマとした次世代型教育について』(講師・Lbe Japan 代表取締役北浩一郎氏)、②「TABLE FORT WO の取り組みの紹介」(講師・特定非営利活動法人

最終日。著名なフランス料理家で食育にも取り組んでいる三國清三シェフの『「世界のミクニ」から見たフランスと日本の食育』と題した講演がありました。三國氏の取り組み食育はフレンチの食育ではなく「和食文化」を守る食育ですが、世



界的に活躍される同氏のエネルギーがシユな話と内容に一堂圧倒されてしまいました。閉会式では次年度開催の関東地区斎藤滋会長より構想が紹介され、大勢の皆様のご参加を期待すると結ばれました。

師走という繁忙期にもかかわらず大勢の先生方にご参加いただきましたことに心より感謝申し上げます。

一日目

【講演Ⅰ】

講演 「武蔵野東学園のインクルーシブ教育」発達障がい児の社会自立に向けて」

講師

武蔵野東小学校
教頭 北村 典子先生
佐藤 有子（自由学園）

講演の内容は、次の四点であった。

(一) 武蔵野東学園の歩みと自閉症児教育

(二) 発達障害の種類と特徴

(三) 武蔵野東小学校のインクルーシブ教育

(四) 発達障害の子どもの成長と社会の中での活躍

武蔵野東学園は、「心と体の健やかな子どもを育てたい」という教育の原点に立ち、一九六四年に幼稚園

を開園した。自閉症児の受け入れをきっかけに混合教育を行い、自閉症児のための独自の教育方法としての『生活療法』を実践してきた。その後小学校・中学校・高等専修学校を開設し、総合学園として今に至っている。

現在の児童・生徒数は一六二二名、内自閉症児は四六二名。約二九パーセントである。

武蔵野東学園の自閉症児教育プログラムは、以下の五つの柱からなっている。

1 生活療法の実践(個別指導教育)

2 集団指導教育

3 混合教育の活用(健常児との交流)

4 保護者による家庭教育への支援

5 社会適合教育

発達障害の種類として自閉症スペクトラム・注意欠陥多動性障害・学習障害をあげ、それぞれの特性について説明した上で、教職員の発達障害への理解がインクルーシブ教育を進めるために重要なことを述べた。

次に武蔵野東小学校のインクルーシブ教育(混合教育)について、武蔵野東学園独自の教育方法「自閉症児と健常児が同じ環境の中で学び、

お互いに影響しあい、ともに成長していくシステム」として紹介された。

各学年が健常児のABCクラスと自閉症児CDEクラスに分かれ、工夫された教室配置で生活していることをしていること。

日々の学校生活の中で行事を通して、一緒にできることは一緒に、個々の子どもに応じて健常児クラスに適応させていく場面をスライドから具体的に見た。

そうした教育の効果として、自閉症児は健常児から刺激を受け、健常児は色々な個性を持った人があることを知り、思いやりの心が育つことをあげ、健常児クラスの学級経営の大切さ、共に生きていくことを学ぶ授業(障害者理解教育)についても話された。

また、卒業生の就労支援・活躍するたくさんの方の姿を映像を通して紹介していただいたことも大変興味深かった。

立つて考えることができること、互いを受け入れ認め合うことは教育の原点であることを改めて感じ、それぞれの学校で活かしていきたいと思うた。

二日目

【講演Ⅱ第一部】
講演 「世界の食事情」をテーマとした次世代型教育について



講師

株式会社 lbe Japan

代表取締役 北 浩一郎氏

佐藤 有子 (自由学園)

ナイジェリア・バングラディッシュ・アルバニア・インドネシア・パキスタン・アルゼンチンからの六



人の留学生を囲んで参加者も六グループに別れ、講演とグループディスカッションを交互に行う形式のワークショップであった。

グループ内で、わからないことに疎外感を持たずに学びあうにはどうしたらいいのか、研修はそこから始

まった。学びの目当てを、世界の人々から学ぶこととし、現実の社会課題がいかに子どもたちの興味・関心を刺激するか、それを次世代型の教育によって行うことを私たち自身が体験する場となった。

テクノロジの急速な発展とグローバル化に伴い、多様性・不確実性がさらに増す時代にあつて子どもたちの可能性を広げるために必要な教育を二十一世紀型教育と定義し、まず、教師自身が対応できる力を持たなくては

ならない。

lbe Japan「Learn by experience」経験によって学ぶという杜名の通り、世界の人々と協働しながら明るい未来を実現する活動の紹介もあった。

多様性を学ぶためには他者尊重、即ち一人ひとりが違うことをリスベクトすることが必要なこと、知識や情報を共有するためには気持ちを持有することも大事であると話された。

また、二十一世紀型の教育の要素として四つのC

Critical

Communication

Collaboration

Creativeをあげていた。

これまでしてきた教育的な活動として留学生と過ごす修学旅行や高校生による食のサミット等について説明もあった。

私のグループの留学生はナイジェリアの出身であった。五百の部族が三つの言語を使用している国で石油と農業が主な産業であることを話し、写真でナイジェリア料理を紹介し、さらに食に関した社会問題についてもプレゼンされた。貧困・栄養バランスの悪さ・熱帯雨林の砂漠化・添

加物や加工食品による健康への悪影響など自国の抱える問題を熱心に語って下さった姿が印象的だった。

今まで知らなかった国の事情を隣に座った留学生の言葉から聞き、すべてに繋がる食をテーマにして学ぶことの意味、人を通じて共同的な学び、ワクワクしながら緊張しながら知識を獲得していくプロセスを体験した貴重な時間であった。この学びを小学生の子どもたちとの学びに変えていくにはどうしたらよいのか、大きな課題を与えられたワークショップであった。

【講演Ⅱ第二部】

講演 TABLE FOR TWO の取り

組みについて

講師

特定非営利活動法人 TABLE

FOR TWO International

代表 安東 迪子氏

佐藤 有子 (自由学園)

世界は二十億人の過食と十億人の食糧不足の人とで成り立っている。

SDGsのゴールに向けて、お弁当やレストランの食事をヘルシーメニューにすることで、一食あたり二十円の寄付をすることができ、それがアフリカの子どもの学校給食と

なる仕組みを作った。

ルワンダのパンダ村でおかゆの給食が実施されている。その様子を映像で観た。パンダ村ではこうした給食によって、学校に来る子どもが増え、援助をきっかけに大学に進学した若者も出てきている。

この取り組みは、賛同する企業その他、官公庁や大学にさらに広がりを見せているとのことであった。

*昼食にはTABLE FOR TWOのお弁当をいただいた。

「ワールドワーク」

児玉 宏之（国立学園）

二日目の午後からは、バス二台に分乗してのワールドワーク。二〇二〇東京五輪パラリンピックを迎える東京」と銘打って、アルカディア市ヶ谷から、まず向かったのは、新国立競技場である。現在工事中で、四十％の出来上がり。バスから見上げると、一番上の観客席裏まで見ることができた。設計は隈研吾（くまけんご）氏。現在は、日に二〇〇〇名の方々が工事に従事しているとのこと。これからは、屋根をつける工事が行われるということ、日に三五〇〇名の工事関係者が

従事すること。あの高さにどうやって屋根を作っていくのか、その工事の大変さを感じた。総工費一五〇〇億円の工事とのこと。外観をバスで眺めてみると、大きさは、以前の国立競技場よりも一回り大きくなったように見えた。外周をバスで移動するが、停車できる場所ほとんどなく、車窓からの見学となった。二〇二〇年の東京五輪の開会式場となる場所と考えると、どんなドラマが展開されるのか、今から待ち遠しい気分である。

その後、国会議事堂の見学ため、バスでの移動となる。途中ガイドさんから紹介されたのは、皇居、皇居外周の三・八kmのランニングコース、最高裁判所、国立劇場、迎賓館、学習院初等科、明治記念館、神宮外苑にある絵画館、新宿にある二九二mのNTTドコモの社屋、二〇一九年にラグビーのワールドカップが開催される秩父宮ラグビー場、豊川稲荷、地下八階の国立国会図書館など。東京という場所にこれだけの建物が密集していることに改めて感心する。東京に修学旅行にきた学生気分です。車窓から建物を楽しんだ。

二番目の見学は、国会議事堂。衆

議院議員の元文部大臣の馳浩議員の秘書の天野健太郎さんの案内で、国会内、衆議院の議場を見学して回った。地方の先生方の中には、初めての見学という方々もいらっしやっただけで、大変興味深く見学されていた。秘書の天野さんも、東京の私学の小学校の出身ということもあり、大変丁寧にご案内いただいた。議席数により、委員会室が変わること。天皇陛下の控室や皇族方の控室もご案内いただいた。議場では、衆議院と参議院の違いを丁寧に説明してくださった。また、議事堂内の食堂を紹介してもらったり、中庭の池を泳いでいる新潟の小出の錦鯉を紹介してもらったりと、一般の見学ではなかなかかえらないことも交えて、ご説明してくださった。

当日は、入管法の採決をめぐる国

会内もあたたかい状況だったが、見学のルートではそんなことを感じることもなく、ここが日本の国政を動かす場所だという重々しい雰囲気を感じながらの見学だった。最後に、議事堂正面玄関の前で、議事堂を背に全員で記念写真を撮った。帰り際には、駐車場わきの売店で、こ



こでしか扱っていない品々を見たり、中には購入されている方もいた。三番目の見学先は、両国にある江戸東京博物館。江戸、東京の歴史を、たくさん資料の展示で紹介している博物館である。六階の受付で、全員が音声ガイドを受け取り、ガイドを聞きながらの見学となった。まずは、日本橋を再現した実寸大の橋を



く紹介されていた。また、一九六〇年代から二〇〇〇年代までの展示では、先生方の生きてきた時代と重なるので、特に興味を持って見学されていた方が多かった。ウォークマンやインベーダーゲームなどには、食い入るように眺めていらつしやる方々がいた。当時の映像や音楽なども流されていて、ノスタルジーに浸

渡って見学開始。古い江戸の様子を再現したジオラマをガイドを参考にしながら見学していると、それだけであつという間に時間が過ぎてしまう。大名籠に入ったり、火消しのまといを振る体験ができるなど、体験コーナーも充実していた。

五階へ降りると、江戸時代の長屋の再現。狭いながらもよく工夫した生活空間であることが伝わってきた。また、明治時代や大正時代の東京の様子も再現されている。関東大震災の被災の様子も細か

る気分だった。中には、日本で初めて作られたという「ひばりが丘団地」の一室を再現したコーナーでは、ご自分が以前に住んでいたという先生もいらつしやり、感慨深くご覧になっていた。

昭和の初期の民家を再現したコーナーでは、実際に座敷に上がって、当時の気分浸っている方もいた。その前には、当時の遊び道具（ベゴマやお手玉など）も置いてあり、紹介する方もいらつしやつて、遊びに興じている方もいた。

あつという間の二時間の見学で、全部を見切れなかった方もたくさんいらつしやつた。

その後は、両国界隈を散策される方、東京スカイツリーを散策される方、市ヶ谷まで帰ってくる方と分かれて、夜の東京を楽しまれた。



三 日 目

【講演Ⅲ】

三國清三シェフの一人称で書きましたことごと承願います。

演題 「世界のミクニ」から見た

フランスと日本の食育」

講師 「オテル・ドゥ・ミクニ」オーナーシェフ 三國清三氏

重永 睦夫（東京都市大学付属）



昨日フランスから帰国したばかりです。マクロン大統領に呼ばれたのですが、例のデモ騒ぎでマクロン大統領は身動きがとれず会えないまま帰国してきました。今日は標題の食育について話させていただきます。

食育基本法ができたのは二〇〇五年、小泉総理のときですが、働きかけたのは料理家の服部幸應先生で

す。私も関わりました。当時、朝食抜きの子どもが増えていました。キレる子どもも話題になりましたが、食生活との関連があると考えました。調べてみるとすでに明治時代に福井県のドクターが「食育」ということを提唱しているのです。現代の食育は、一九八四年にジャック・ピジェが「十二歳までに正しく味覚

ができない子は親になつて子どもを虐待する」と衝撃的な発表を行った翌年にイタリアでスローフード運動として始まりました。ファストフードに対抗して三つの原則があります。①伝統的な食料や料理を守る。②質のよい素材を提供する小生産者を守る。③味覚の教育を進める。フランスでは一九九〇年に始まりました。十月第三週を「味覚の週間」と定めて本格的な食育を進めたのです。水だけで山の水、水道水など五種類のティスティー

ングを食育で行うなど徹底しています。いまは世界中で「甘味、塩味、酸味、苦味、うま味」の五味を基本味としています。うま味」という日本語が世界共通語になっています。この「うま味」は日本の池田菊苗先生が大正の始めに昆布から抽出して発見したからです。フランス人と日本人の味覚は近いのですが、私がフランスにいた頃、「日本でも食育を始めなければファストフードによって味覚がめちゃくちゃにされるぞ」と言われ、服部幸應先生に相談したわけです。それが二〇〇五年に食育基本法として結実します。

私自身は二十一世紀に入ることから各地の小学校で単発的に食育を進めてきました。しかし単発の食育は限界があるので、二〇一一年から東京都市大学付属小学校で四年生を対象に一年間かけて食育授業を進めています。内容を少し紹介しますが、五味、お箸の使い方、食事の姿勢、南米の長寿村が崩壊した理由、野菜の育て方、うま味の発見の歴史と鰹節削り体験、お菓子の歴史などですが、調理実習もやります。子どもたちが育てた野菜でサラダも作りま

フォローアップ授業もやります。

ホヤは海のパイナップルと言われる五味の宝庫なのですが、東日本震災で全滅した養殖ホヤを復活させた話が感動的です。食育の「伝統食の維持や復活」の理念に合致するので「気仙沼ホヤ物語」という紙芝居にしました。それをご覧いただくと思います。：紙芝居上映：以上でございます。ご清聴ありがとうございます。

※このあと質疑応答がありました。が、それを含めて食育の大切さが伝わってきた講演でした。 以上

* * *

【お詫びと訂正】

会報第三四五号で、次の二件の誤りがありました。

お詫びを申し上げるとともに、ご報告申し上げます。

一、西武学園文理小学校

飛田浩昭校長の「年頭所感」を掲載漏れいたしました。

二、高羽六甲アイランド小学校
校長名に誤りがありました。
誤：田川哲也 正：田川智

2019 年度 日私小連研修会日程表

(平成 30 年 12 月 28 日現在)

研修会	実施回数	集録番号	期 日	場 所
西 日 本 地 区	61	417	2019 年 5 月 24 日 (金)	香里ヌヴェール学院小学校 (大阪府)
東 京 地 区	56	418	2019 年 6 月 7 日 (金)	白百合学園小学校 (東京都)
全 国 教 頭	43	419	2019 年 8 月 21 日・22 日 (水・木)	新横浜グレイスホテル (神奈川県)
全 国 夏 季	63	420	2019 年 8 月 19 日～21 日 (月～水)	新横浜プリンスホテル、他 (神奈川県)
北 海 道 ・ 東 北 地 区	48	421	2019 年 10 月 11 日 (金)	聖ウルスラ学院英智小・中学校 (宮城県)
九 州 地 区	44	422	2019 年 10 月 18 日・19 日 (金・土)	長崎南山小学校 (長崎県)
関 東 地 区	61	423	2019 年 11 月 16 日 (土)	洗足学園小学校 (神奈川県)
全 国 幹 部	64	424	2019 年 12 月 5 日～7 日 (木～土)	新横浜プリンスホテル (神奈川県)

日本私学教育研究所と共催の初任者等研修会

研 修 会	期 日	場 所
初任者研修地区研修会		
小学校 (東日本地区)	2019 年 7 月 29 日～31 日 (月～水)	アルカディア市ヶ谷 (東京都)
小学校 (西日本地区)	2019 年 7 月 31 日～8 月 2 日 (水～金)	大阪ガーデンパレス (大阪府)
初任者研修全国研修会		
小中高校 (東日本)	2019 年 10 月 11 日・12 日 (金・土)	主婦会館プラザエフ (東京都)
小中高校 (西日本)	2019 年 10 月 25 日・26 日 (金・土)	京都ガーデンパレス (京都府)
中堅教員 (10 年経験者等) 研修会		
小中高校 (東日本)	2019 年 7 月 23 日・24 日 (火・水)	主婦会館プラザエフ (東京都)
小中高校 (西日本)	2019 年 7 月 26 日・27 日 (金・土)	京都ガーデンパレス (京都府)

東日本地区は (東京地区と北海道・東北地区と関東地区)、西日本地区は (西日本地区と九州地区) を含む。

2010年代の教育宣言

今や、地球規模で激動する2010年代を迎えました。私たち私立小学校は、著しい社会変化と科学技術の高度化が進展する時代の中で、建学の精神を継承するとともに伝統を重んじ、その使命とする理想の教育をめざし、誇りをもって初等教育の先駆的な実践を世に問うてきました。

21世紀は「知識基盤社会」の時代であるといわれています。その一方で「心」の時代でもあります。私たち私立小学校は、個人の自由と人権および児童一人一人の個性を尊び、その内なる可能性を児童愛をもって引き出す方法を実践・探求し、未来を切り拓いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成します。

併せて、真の世界平和と持続可能な自然環境の維持のために、広い視野をもって考え、共感する力を身につけた児童を育成します。

そのため、私たち私立小学校は、伝統と特色ある教育をさらに充実させ、私学人としての自覚に立ち、お互いに協力結束し磨き合い、わが国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2010（平成22）年6月11日

日本私立小学校連合会